河内長野市遺跡調査会報XVIII

栄　町　南　遺　跡

市営西代住宅建て替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９７年３月

河内長野市遺跡調査会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、市域を高野街道を初めとする街道が通り、南河内における交通の要衝として発展してきた街です。このため、市内には金剛寺、観心寺などの寺社に代表される重要文化財や、多くの埋蔵文化財が残されています。

このような河内長野市も、大阪市内への通勤圏に位置しているため、近年になって住宅都市として急速に開発が進んでいます。

開発がもたらす影響は自然や文化財にとって大きなものです。とくに埋蔵文化財にとっては直接的に関わってくるものとして大きな問題でもあります。

開発を必要とすると同時に、失われていく遺跡に託された先人達のメッセージを現在の市民、さらには未来の市民へと伝えていかなければなりません。

本書は河内長野市に存在する遺跡の発掘調査の成果を収録しています。先人達が残したメッセージの一部でも理解していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深い御理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成９年３月

河内長野市遺跡調査会
理事長　中　尾　謙　二

例　　言

1．本報告書は平成７・８年度に河内長野市遺跡調査会が河内長野市から委託を受けた栄町南遺跡（ＳＫＳ95－１）の発掘調査報告書である。
2．調査は河内長野市教育委員会社会教育課文化財保護係主査尾谷雅彦を担当者として実施し、内業調査については同嘱託中西和子が補佐した。
3．調査にかかる事務は調査会事務局長濱田宗良（社会教育課長補佐兼務）が主担した。
4．本書の執筆及び編集は尾谷雅彦が行い、松尾和代がこれを補佐した。
5．発掘調査および内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）
喜多順子・小森光・阪木しずこ・杉本祐子・田川富子・中尾智行（現本市教育委員会）・中村嘉彦・東田幸子・藤井美佐子・枡本裕子・牟田口京子
6．遺物および遺構の一部の写真は中西が撮影した。
7．発掘調査および内業整理については下記の方々の協力を得た。記して感謝する。（敬称略）
椋本進・河内長野市建設部建築課・栄町自治会・株式会社島田組・株式会社パスコ
8．本調査の記録はスライドフィルムなどでも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

凡　　例

1．本報告書に記載されている標高はＴＰを基準としている。
2．土色は新版標準土色帖による。
3．平面測量は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基準に実施したものである。
4．図中の北は座標北である。
5．本書の遺構名は下記の略記号を用いた。
ＳＢ…建物　　ＳＤ…溝　　ＳＫ…土坑
6．遺構実測図の縮尺は1/20、1/60、1/200、1/250、1/300である。
7．遺物実測図の縮尺は1/4である。
8．土釜の形式分類は菅原正明氏の編年に基づくものである。
9．瓦器の断面は黒塗り、土師質土器・砥石の断面は白抜きである。
10．遺物番号と写真図版の番号は一致する。

目　　次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
図版目次
第１章　はじめに……1
　１．調査に至る経過……1
　２．位置と環境……1
第２章　調査の結果……7
　１．第１調査区……7
　２．第２調査区……10
　３．第３調査区……11
　４．第４調査区……11
　５．第５調査区……11
　６．第６調査区……13
　７．第７調査区……13
第３章　まとめ……15

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図……1
第２図　調査区位置図(1/5000)……1
第３図　河内長野市遺跡分布図(1/40000)……2
第４図　遺構配置図(1/200)……7
第５図　土層断面実測図(1/60)……8
第６図　ＳＢ１遺構実測図(1/60)……9
第７図　ＳＢ２遺構実測図(1/60)……9
第８図　ＳＫ６遺構実測図(1/20)及び出土遺物実測図……10
第９図　遺構配置図(1/200)及び土層断面実測図(1/60)……11
第10図　包含層出土遺物実測図……11
第11図　遺構配置図(1/250)及び土層断面実測図(1/60)……12

第12図　ＳＫ７・包含層出土遺物実測図…… 13
第13図　遺構配置図(1/250) …… 13
第14図　調査区全体図(1/300) …… 17・18

表　目　次

第１表　河内長野市遺跡地名表…… 3

図　版　目　次

図版１　遺構　第１調査区全景(北東から)、ＳＫ６遺物出土状況(西から)
図版２　遺構　第１調査区全景(南西から)、第２調査区全景(南西から)
図版３　遺構　第３調査区全景(北東から)、第４調査区全景(北東から)
図版４　遺構　１．第５調査区全景(南西から)、２．第６調査区全景(南西から)、
３．南西から調査地を望む
図版５　遺構　第７調査区全景(北西から)
遺物　ＳＫ６(１)、第３調査区包含層(２・４・６)、ＳＫ７(10)、第５調査区包含層(８・９・15・16)

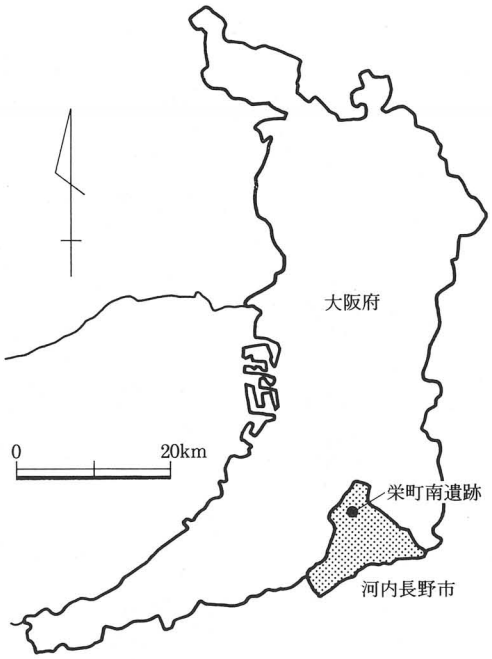
第１章　はじめに

１．調査に至る経過

本調査は、河内長野市営西代住宅建替え事業に伴い実施したものである。

河内長野市教育委員会は従来より公共事業に伴う埋蔵文化財の取扱について、事前の協議を原課と行ってきた。当該事業についても平成５年度に埋蔵文化財の照会がなされ、市教育委員会は平成６年度に試掘調査を実施するための予算措置を講ずるよう回答した。

この後、平成６年８月17日に市長名で試掘調査依頼が市教育委員会に出された。調査については市教育委員会の指導の下に河内長野市遺跡調査会が実施することになり、平成６年９月28日に委託契約が締結され平成６年９月29日から平成６年10月31日まで調査が実施された。その結果、遺構・遺物が発見され、新規発見遺跡「栄町南遺跡」と命名された。このことから翌平成７年10月25日に外業調査並びに内業調査の実施について市と市教育委員会とで協定書が締結された。さらに調査については河内長野市遺跡調査会が実施する事になった。市と同調査会が平成８年１月18日に委託契約を締結した。外業調査(発掘調査)を平成８年１月19日から平成８年３月22日かけて、内業調査(報告書作成)を平成８年９月19日から平成９年３月14日まで行い、委託業務にかかる全ての調査を完了した。

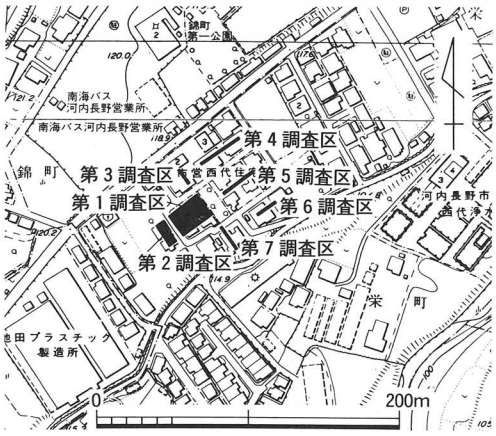


第１図　遺跡位置図

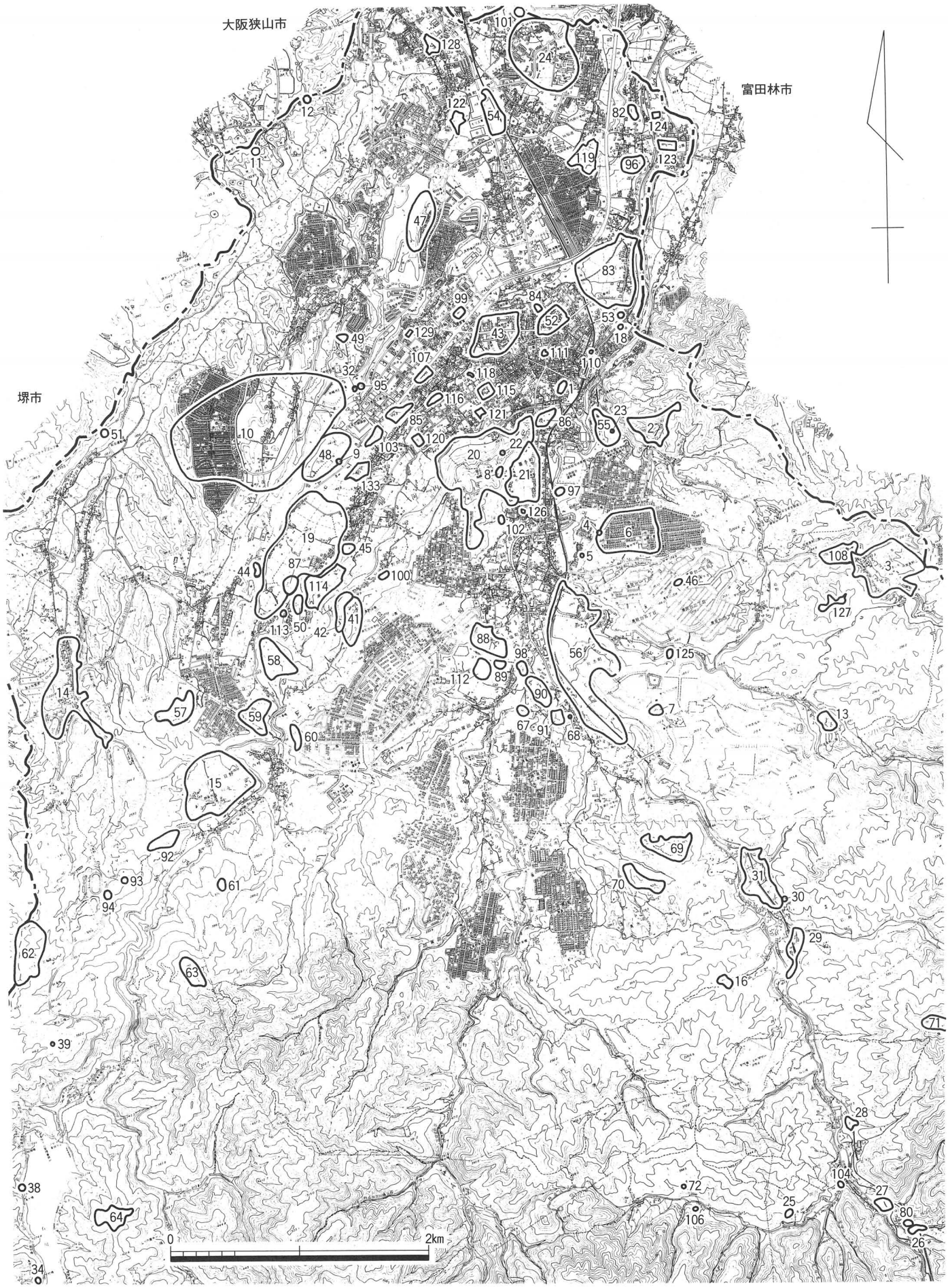
２．位置と環境

（１）位置

当該遺跡は大阪府河内長野市栄町に位置する。標高は約120mを測る。遺跡の南東側を流れる和泉葛城山系の岩湧山を源とする大和川の支流石川は、狭小な河谷を形成しながら北流する。本市日野から出た石川は高向付近から左岸に２段の河岸段丘を形成する。上位は中位段丘でその標高は150mから128m、幅は約500mを測る。下位は低位段丘で標高122



第２図　調査区位置図(1/5000)



第３図　河内長野市遺跡分布図(1/40000)

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	観心寺	社寺	平安以降
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落	弥生（後期）
7	興禅寺	社寺	
8	烏帽子形八幡神社	社寺	室町
9	塚穴古墳	古墳	古墳（後期）
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安以降
15	日野観音寺遺跡	社寺	中世
16	地蔵寺	社寺	
(17)	岩湧寺	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文・中世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	流谷八幡神社	社寺	
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬薬師寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮の下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳？	古墳
42	宮山遺跡	散布地	縄文・中世
43	西代藩陣屋跡	城館 散布地	江戸 飛鳥～奈良
44	上原町墓地	墳墓	
45	惣持寺跡	社寺	鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	縄文～近世
49	住吉神社遺跡	社寺	
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	
52	膳所藩河州出張所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺城跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15経塚	経塚	

番号	文化財名称	種類	時代
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	
(73)	葛城第18経塚	経塚	
(74)	葛城第19経塚	経塚	
(75)	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光滝寺	社寺	
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	大日寺遺跡	社寺	弥生・中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之山町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	
(105)	葛城第17経塚	経塚	
106	薬師堂跡	社寺	中世以降
107	野作遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
(109)	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	
111	山上講山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	錦町北遺跡	社寺	弥生・中世
119	市町西遺跡	散布地	縄文・中世
120	栄町南遺跡	散布地	中世
121	栄町東遺跡	散布地	弥生・中世
122	楠町東遺跡	散布地	弥生
123	汐の宮町南遺跡	散布地	奈良
124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ガ丘近世墓	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世
127	三昧城遺跡	墳墓・城館	中世・近世
128	松林寺遺跡	社寺	近世
129	昭栄町遺跡	散布地	中世
*130	東高野街道	街道	平安以降
*131	西高野街道	街道	平安以降
*132	高野街道	街道	平安以降
133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世

（　）は地図範囲外　＊は街道につき地図上にプロットせず

第1表　河内長野市遺跡地名表

mから109m、幅は約200mを測る。遺跡はこの低位段丘面に位置し、石川の狭い沖積面から10mの比高差を測った。

（2）歴史的環境

和泉山脈、金剛山地に源を発する石川の各支流や西除川は狭小な河谷を形成しながら北流する。河内長野市はこれら河川によって作られた開析谷や河岸段丘上に集落が発達している。特に中心となる長野や三日市は谷口の集落として、また、各谷筋を通る街道の要衝として発達してきたものである。

遺跡もまた、谷筋ごとに分布している。縄文時代の遺跡は最近増加しているが、石川本流から天見川沿いに北から向野遺跡、喜多町遺跡、三日市遺跡、小塩遺跡の4遺跡があり、後期を中心とする土器が出土している。また、石川本流には高向遺跡や宮山遺跡があり、宮山遺跡からは中期後半の土器とともに竪穴住居も確認されている。さらに、三日市遺跡や小塩遺跡からは早期の押型文土器が出土している。これらの遺跡以外に高木遺跡、寺ヶ池遺跡、菱子尻遺跡からはサヌカイト片や石器が出土している。

弥生時代は石川左岸の塩谷遺跡や天見川右岸の三日市遺跡から中期の遺物が、大師山遺跡からは後期の遺物が出土している。

古墳時代は天見川を見下ろす位置に前期の前方後円墳である大師山古墳、中期の三日市遺跡の古墳群、後期の烏帽子形古墳が分布している。石川本流の向野町から寿町にかけては五ノ木古墳、法師塚古墳、双子塚古墳などの古墳が分布している。また、石川左岸の上原町には塚穴古墳が現存している。集落遺跡では、前期から中期にかけては天見川沿いに三日市遺跡があり、後期前半では同じく天見川沿いに喜多町遺跡、小塩遺跡、加塩遺跡がある。

奈良時代になると、高向遺跡や喜多町遺跡、小塩遺跡から掘立柱建物や土坑が検出されている。また、本市と大阪狭山市との市境の小山田町からは2基の火葬墓が発見されている。

平安時代では向野遺跡、10世紀の掘立柱建物が検出された天見川沿いの尾崎遺跡、11～12世紀の掘立柱建物が検出された三日市遺跡、そして石川本流の野間里遺跡が確認されている。また市内にある観心寺や金剛寺などの寺院は平安時代末ごろから伽藍が整い、多くの荘園を有していた。

中世になると、交通路が整備され各谷筋を通る高野街道や天野街道沿いに集落が分布している。特に西高野街道では北から菱子尻遺跡や古野町遺跡があり、東高野街道では向野遺跡がある。西、東が一つとなって天見川沿いを南に伸びる高野街道では合流付近の長野神社遺跡や喜多町遺跡、さらに南に三日市遺跡、尾崎遺跡、ジョウノマエ遺跡、清水遺跡、千早口駅南遺跡(寺院跡も含む)、天見川北方遺跡、蟹井淵北遺跡、蟹井淵南遺跡と続く。これらは明らかに街道と共に発達した遺跡である。集落跡以外では、同じように街道を見

下ろす尾根上に南北朝から戦国時代にかけての城塞が20数ヵ所分布している。生産遺跡としては平安時代から中世にかけての炭焼窯と思われる窯跡が市内の山間部に分布している。

近世になると近江膳所藩や河内西代藩の陣屋跡があり、さらに確認数は少ないが近世瓦窯趾も地元の伝承どおり確認されている。

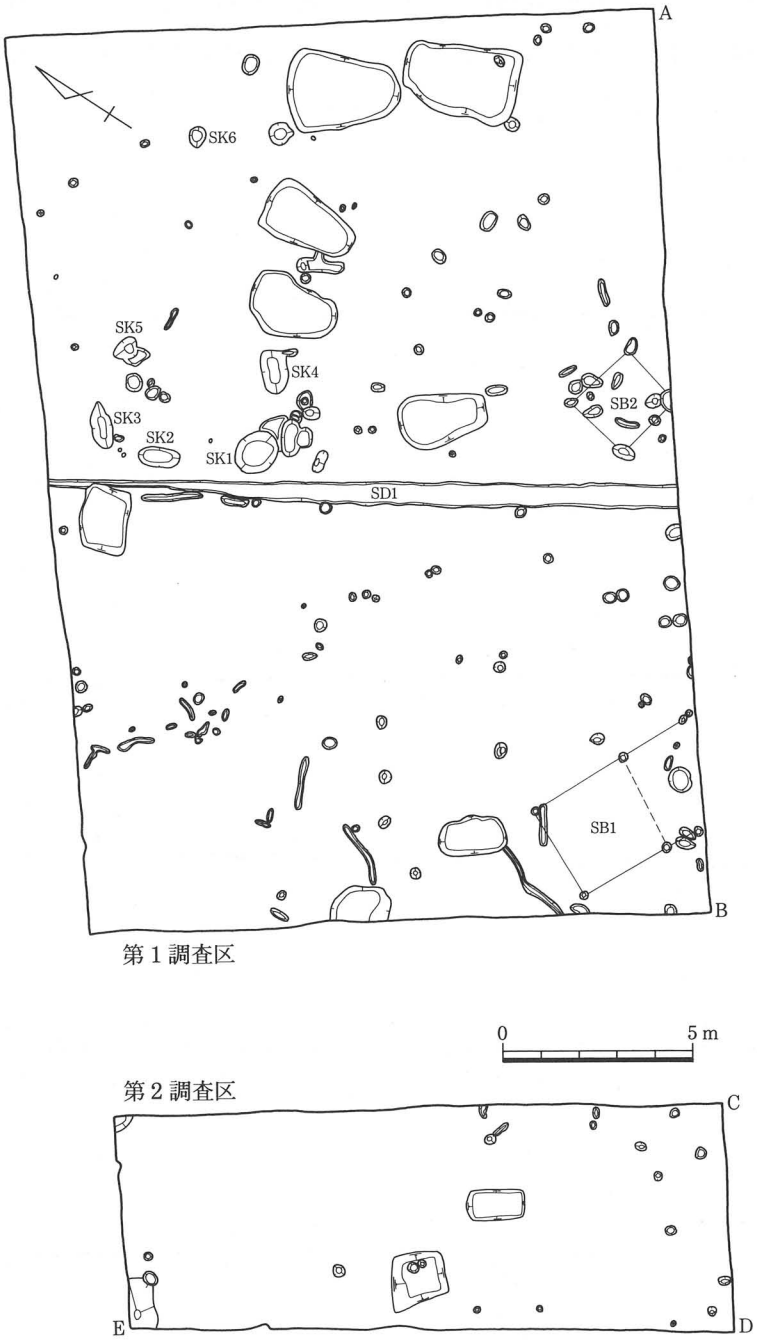
第２章　調査の結果

調査区は試掘結果と工事計画をもとに７カ所設定した。

１．第１調査区（第４・５図、図版１・２）

調査区は幅16m、長さ23.5mの規模で設定した。

遺構は、掘立柱建物が２棟と溝・土坑・ピットが検出された。



第４図　遺構配置図(1/200)

（1） 掘立柱建物

［ＳＢ１］（第６図）

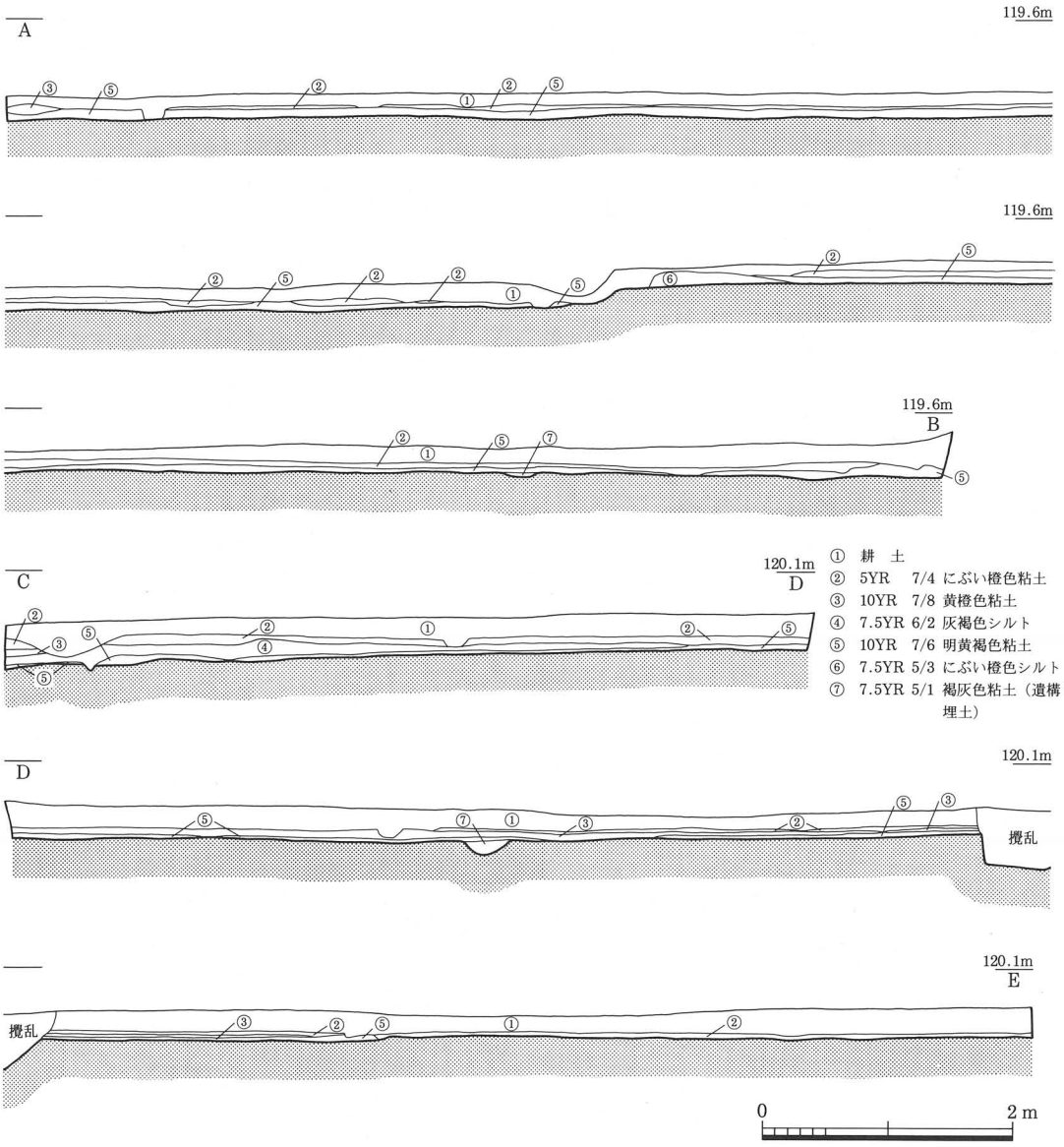
ＳＢ１は調査区の南西端に位置する掘立柱建物である。建物の規模は桁行２間以上（４.6m以上）×梁行１間（２.6m）を測る。柱間は桁行の南側が２.4m、０.93m、北側は２.８m、１.8mで、柱穴の深さは0.07mから0.15mであった。桁行方向はＮ－65.5°－Ｗを示す。

柱穴からは遺物が出土しなかった。

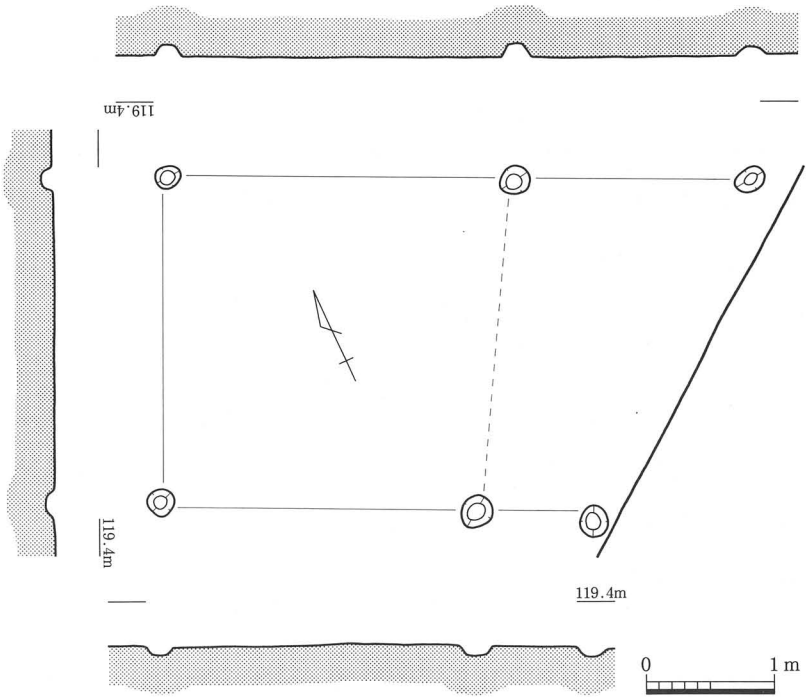
［ＳＢ２］（第７図）

ＳＢ２は調査区の中央南側に位置する掘立柱建物である。ＳＢ１の北東側７ｍで検出された。建物の規模は桁行１間（１.9m）×梁行１間（2.0m）を測る。柱穴の深さは0.07mから0.15mであった。桁行方向はＮ－76°－Ｗを示す。

柱穴からは遺物が出土しなかった。



第５図 土層断面実測図（1/60）



第６図　ＳＢ１遺構実測図(1/60)

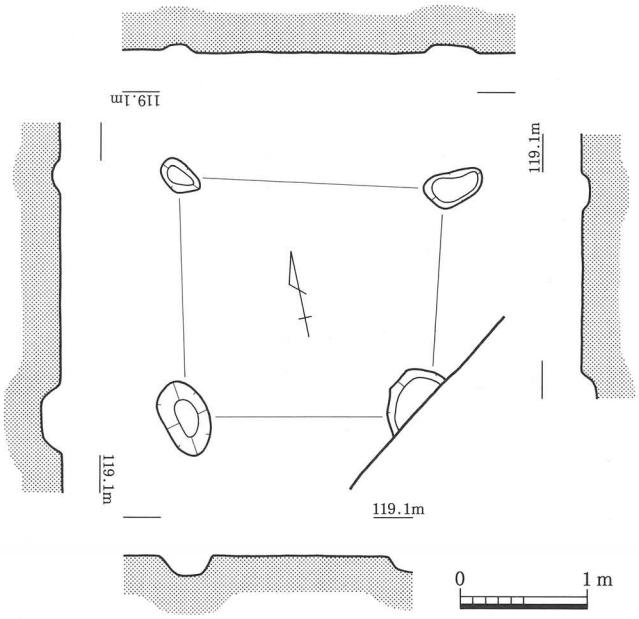
（２）　溝

［ＳＤ１］

ＳＤ１は調査区の中央を横断するように検出された。

規模は最大幅が0.7m、深さが0.06mを測る。検出方向はＮ－31.5°－Ｗを示す。埋土は灰白色シルトの一層であった。

遺物は検出されなかった。



第７図　ＳＢ２遺構実測図(1/60)

（３）　土坑

［ＳＫ１］

ＳＫ１は調査区中央で検出されＳＤ１に近接する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径1.24m、短径1.04m、深さ0.45mを測る。主軸方向はＮ－69.5°－Ｗを示す。埋土は褐灰色シルトと黄色粘土のブロック土である。

遺物は土師質土釜と瓦器椀の細片、そして鉄製釘が出土している。

［ＳＫ２］

ＳＫ２は調査区中央で検出されＳＫ１の北西側1.5mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。規模は長径1.1m、短径0.55m、深さ0.16mを測る。主軸方向はＮ－29°－Ｗを示

す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は瓦器椀と土師質土釜・皿・椀の細片が出土している。

［ＳＫ３］

ＳＫ３は調査区中央で検出されＳＫ２の北西側0.8mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。規模は長径1.28m、短径0.54m、深さ0.18mを測る。主軸方向はＮ－45°－Ｗを示す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は土師質の器種不明の細片と瓦器椀の細片が出土している。

［ＳＫ４］

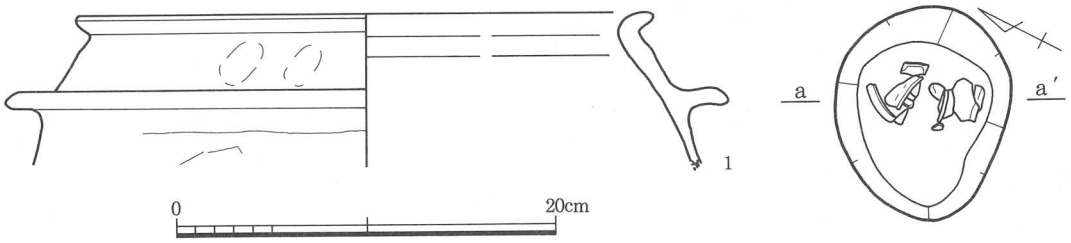
ＳＫ４は調査区中央で検出されＳＫ１の北東側1.0mに位置する。平面形は長楕円形を呈する。規模は長径1.17m、短径0.71m、深さ0.19mを測る。主軸方向はＮ－49.5°－Ｅを示す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は土師質土器の細片が出土している。

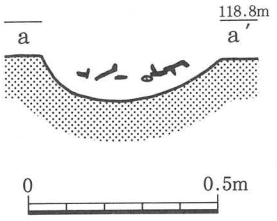
［ＳＫ５］

ＳＫ５は調査区中央で検出されＳＫ２の北東側2.0mに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長径0.77m、短径0.71m、深さ0.16mを測る。主軸方向はＮ－16.5°－Ｅを示す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は瓦器椀の細片が出土している。



第８図　ＳＫ６遺構実測図(1/20)及び出土遺物実測図



［ＳＫ６］（第８図、図版１・５）

ＳＫ６は調査区中央で検出されＳＫ１の北東側7.5mに位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径0.56m、短径0.44m、深さ0.09mを測る。主軸方向はＮ－71°－Ｅを示す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は土師質土釜（１）・皿、瓦器椀の細片が出土している。

２．第２調査区（第４・５図、図版２）

第２調査区は長さ16m、幅６mの長方形を呈している。

遺構はピットが検出されたが、建物等には復元できなかった。その規模は平均径約0.4m、深さ0.2mを測る。

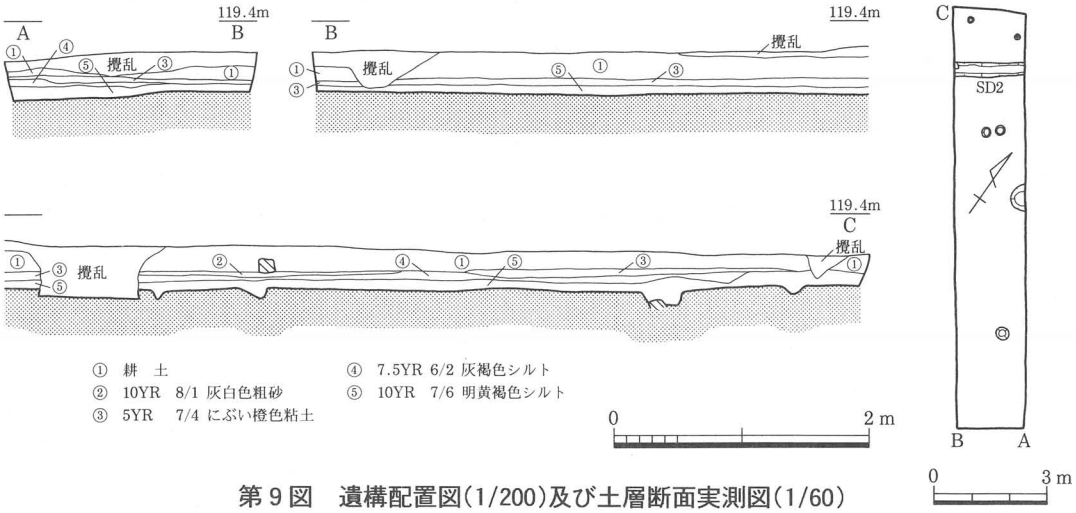
遺物は土師質土器の極細片とサヌカイト片が若干出土しただけである。

3．第３調査区（第９・10図、図版３・５）

第１調査区の北西側に設定した長さ10m、幅２mの調査区である。

地山面からは５カ所のピットと溝、土坑が検出された。明確な遺構は溝だけである。

遺物は包含層から土師質皿・埦・土釜・甕・瓦器埦（２～７）などの細片が出土した。



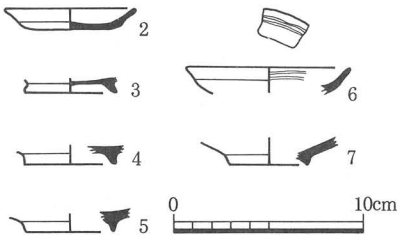
第９図　遺構配置図(1/200)及び土層断面実測図(1/60)

［ＳＤ２］

ＳＤ２は調査区の北西端で調査区を横断するように検出された。

規模は最大幅が0.4m、深さが0.15mを測る。検出方向はＮ－53.5°－Ｅを示す。埋土は明黄褐色粘土の一層であった。

遺物は出土しなかった。



第10図　包含層出土遺物実測図

4．第４調査区（第11図、図版３）

第３調査区の北東側約12mに設定した長さ30m、幅２mの調査区である。

層序は上層から盛土、耕土、床土、遺物包含層に相当する明黄褐色粘土（層厚５㎝）、地山の順に堆積している。地山は現表土より約－40㎝である。

地山面からは２カ所のピットと撹乱が検出されただけである。

遺物は包含層から土師質皿・埦・土釜、瓦器埦などの細片が出土した。

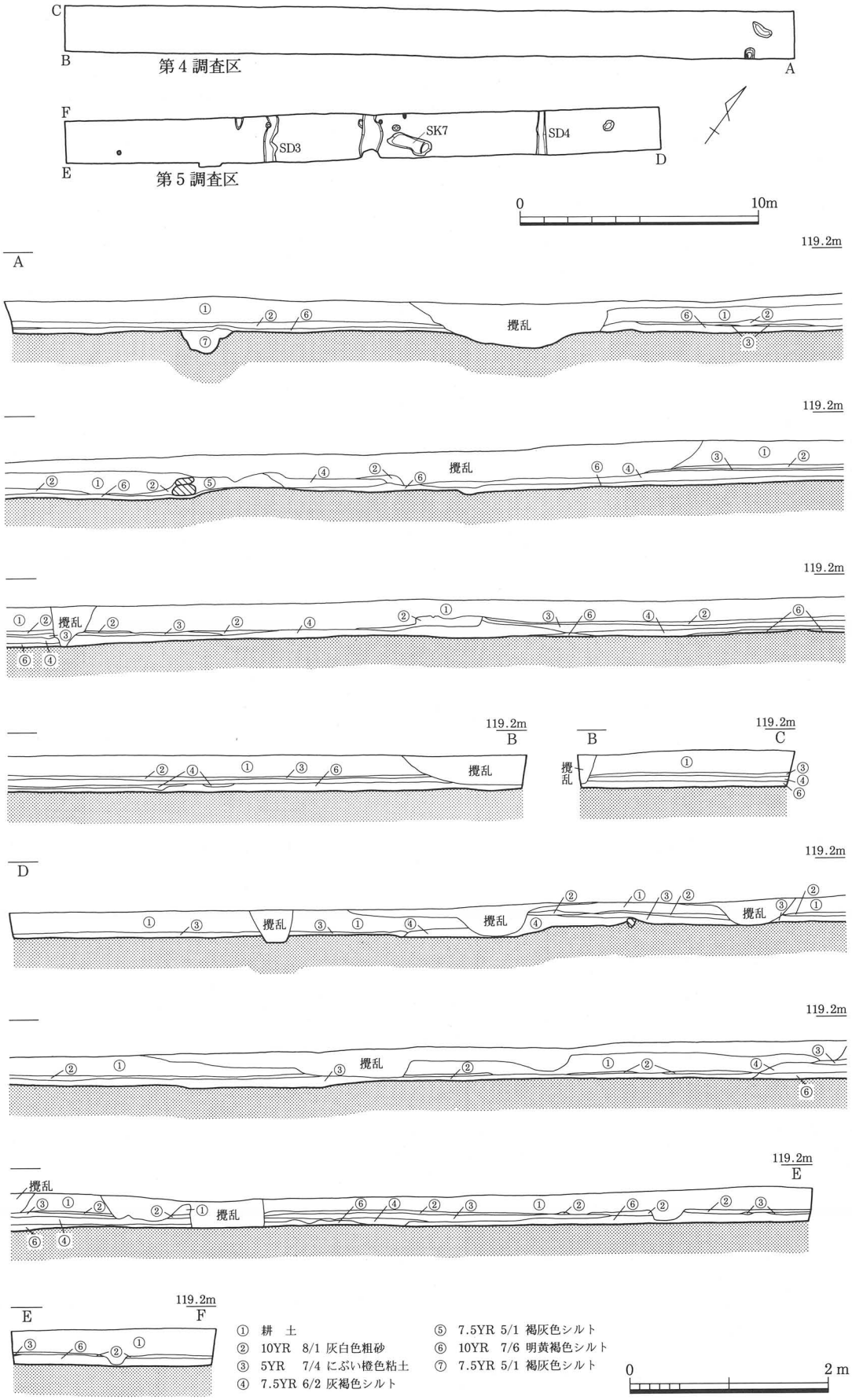
5．第５調査区（第11図、図版４・５）

第４調査区の北東側約21mに平行するよう設定した長さ24m、幅２mの調査区である。

層序は上層から盛土、耕土、床土、遺物包含層に相当する明黄褐色粘土(層厚５㎝)、地山の順に堆積している。また、撹乱部分も多かった。

地山面からは７カ所のピットと溝が２条、土坑が１基検出された。

包含層から土師質埦(11)・皿(８・９)、瓦器埦(12～15)、砥石(16)が出土している。



第11図　遺構配置図(1/250)及び土層断面実測図(1/60)

（1） 溝

［ＳＤ３］

ＳＤ３は調査区の中央で調査区を横断するように検出された平面形がやや不定形な溝である。規模は最大幅が0.55m、深さが0.05mを測る。検出方向はＮ－34.5°－Ｗを示す。埋土は明黄褐色粘土の一層であった。

遺物は検出されなかった。

［ＳＤ４］

ＳＤ４は調査区の北東側で調査区を横断するように検出された溝である。規模は最大幅が0.44m、深さが0.05mを測る。検出方向はＮ－34.5°－Ｗを示す。埋土は黄色粘土の一層であった。

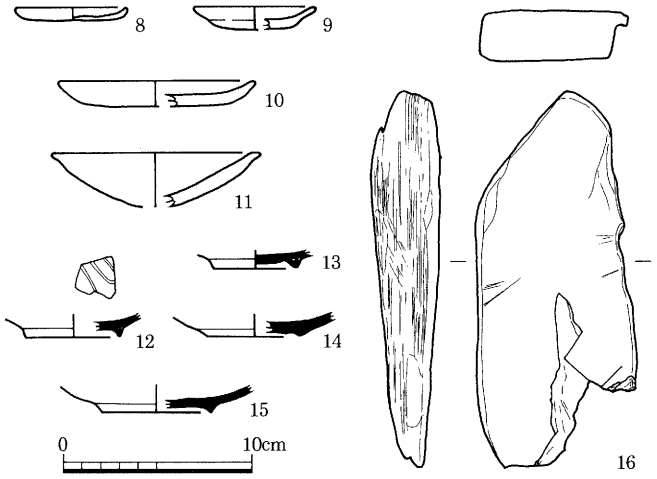
遺物は検出されなかった。

（2） 土坑

［ＳＫ７］（第12図、図版５）

ＳＫ７は調査区中央で検出されＳＤ３の東側3.2mに位置する。平面形は不定形な楕円形を呈する。規模は長軸1.75m、短軸0.68m、深さ0.17mを測る。主軸方向はＮ－71°－Ｅを示す。埋土は暗灰黄色細砂まじりシルトである。

遺物は土師質皿(10)が出土している。



第12図　ＳＫ７・包含層出土遺物実測図

６．第６調査区（第13図、図版４）

第５調査区の南東側約22mに設定した長さ15m、幅２mの調査区である。

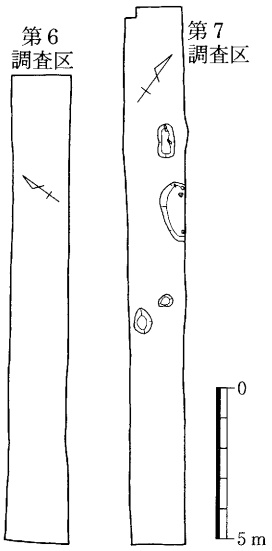
地山面からは遺構は確認されなかった。

層序は攪乱部分が多かったが、他の調査区と同様に上層から耕土、床土、明黄褐色粘土が堆積していた。現地表から約－30cmで地山であった。

遺物は包含層から土師質皿、陶器の細片が出土した。

７．第７調査区（第13図、図版５）

第１調査区の南東側約９mに設定した長さ18m、幅２mの調査



第13図　遺構配置図(1/250)

区である。

層序は攪乱部分が多く、旧状を保っていなかったが、上層から耕土、床土、地山となっており、遺物包含層に相当する層は確認されなかった。

地山面からはピット2カ所、土坑2カ所が確認されたが明確ではなかった。

遺物は出土しなかった。

第3章　ま　と　め

今回の調査においては、明確な遺構は少なかった。しかし、辛うじて掘立柱建物を２棟復元することができた。また他の遺構としては土坑を検出することができた。

遺物は包含層から風化したサヌカイトの剝片が出土しているが、明確な時期を限定できるものではなかった。他の遺物は一点の砥石を除いて、土器片ばかりであった。土器はほとんどが中世の瓦器、土師質土器や須恵質土器であった。特にＳＫ６から出土した土師質土釜は菅原編年の河内Ｂ型である。

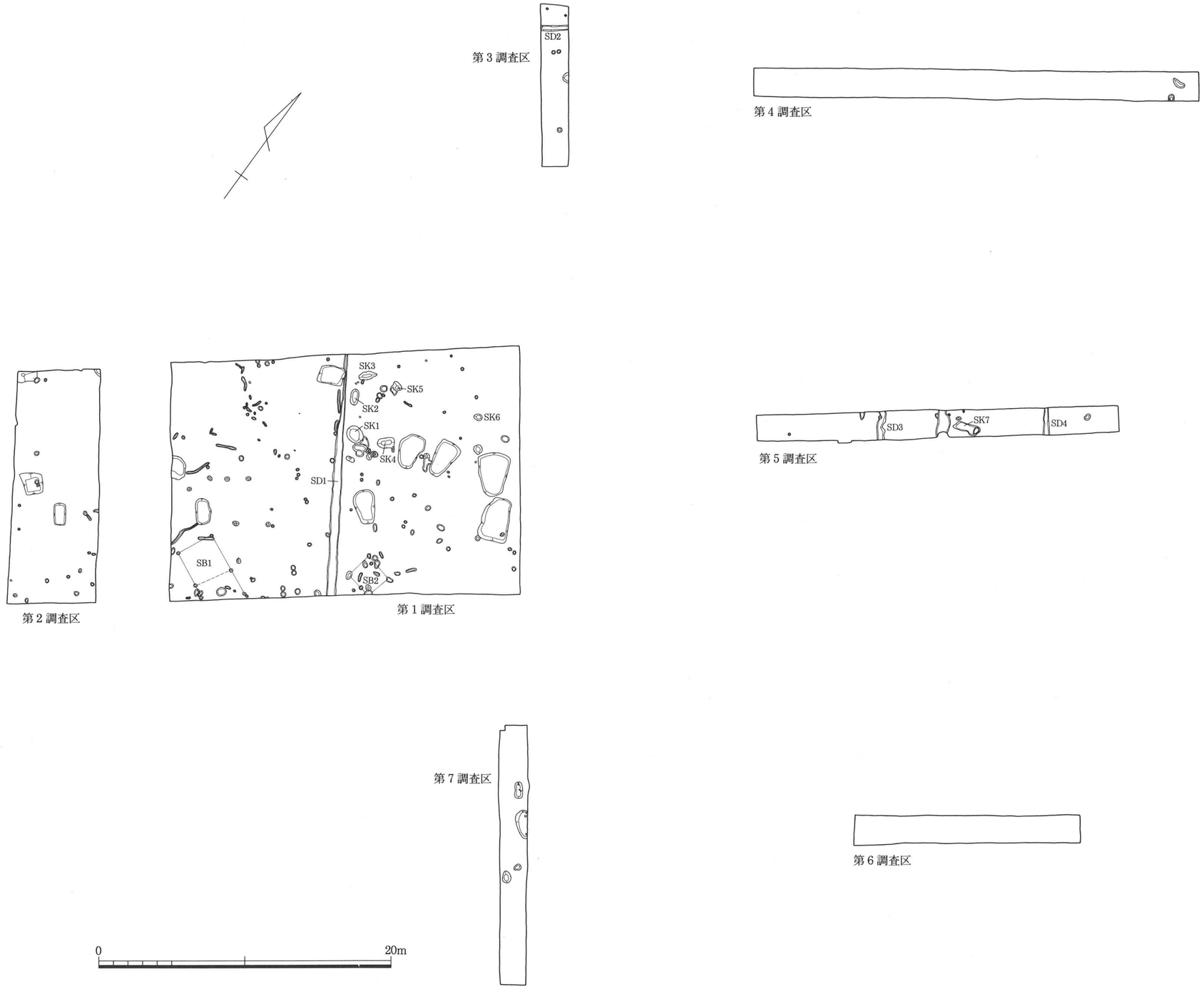
この遺跡の時代については、少ない遺物で限定するのは危険であるが、12世紀から13世紀に相当すると思われる。

この遺跡の所在地は旧西代村に属していた。江戸時代以降の様相は歴史資料や考古資料で判明しているが、それ以前の歴史についての資料は少なく詳細は判っていない。

遺跡の時代として考えられる中世はじめ頃は、この石川沿いに法成寺領長野庄、安楽寿院領高向庄、金剛寺領天野庄が分布していた。遺跡が所在する旧西代村は西側は高向村と接し、北側は上原村に接していた。高向村は中世には前記のように安楽寿院領高向庄の範囲であった。この地理的な位置関係を考慮すれば、この西代村の地は法成寺領長野庄の範囲に入るものと思われる。

長野庄は中山忠親の日記「山槐記」治承５年（1181）１月６日条によれば、本家が法成寺、領家が中山忠親、下司が源貞弘であったことがわかる。この貞弘は長野武者とも呼ばれ、治承４年に金剛寺に長野庄のうち天野谷を寄進している。また、寿永２年には平家方として越中に出兵し戦死している。そののち、この長野庄は石川源氏が勢力を伸ばし、地頭・下司職を把握した。後に頼朝が関東御家人天野遠景を地頭職に任じている。

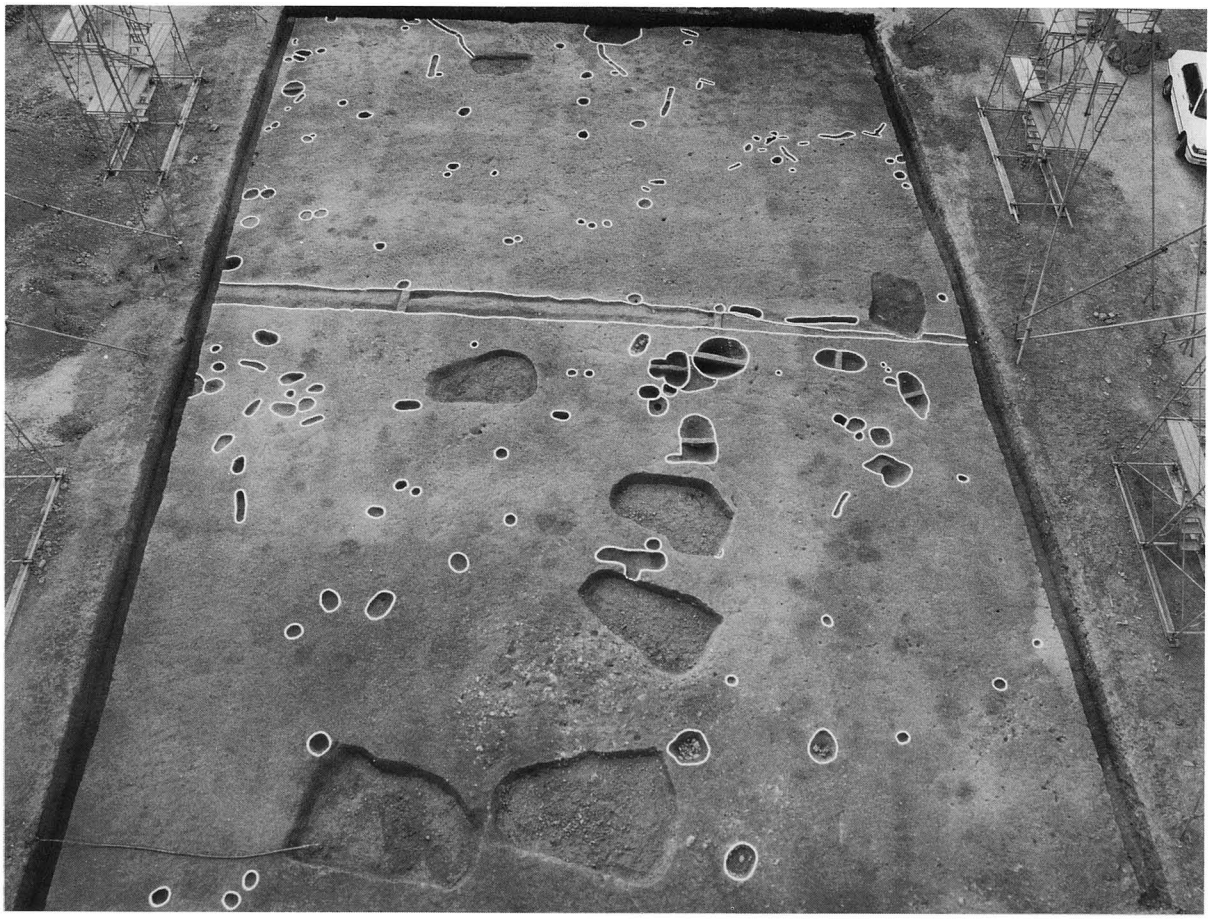
このように栄町南遺跡の時代である12・13世紀の当地周辺は、治承・寿永の内乱期の中で揺り動いていた時代である。



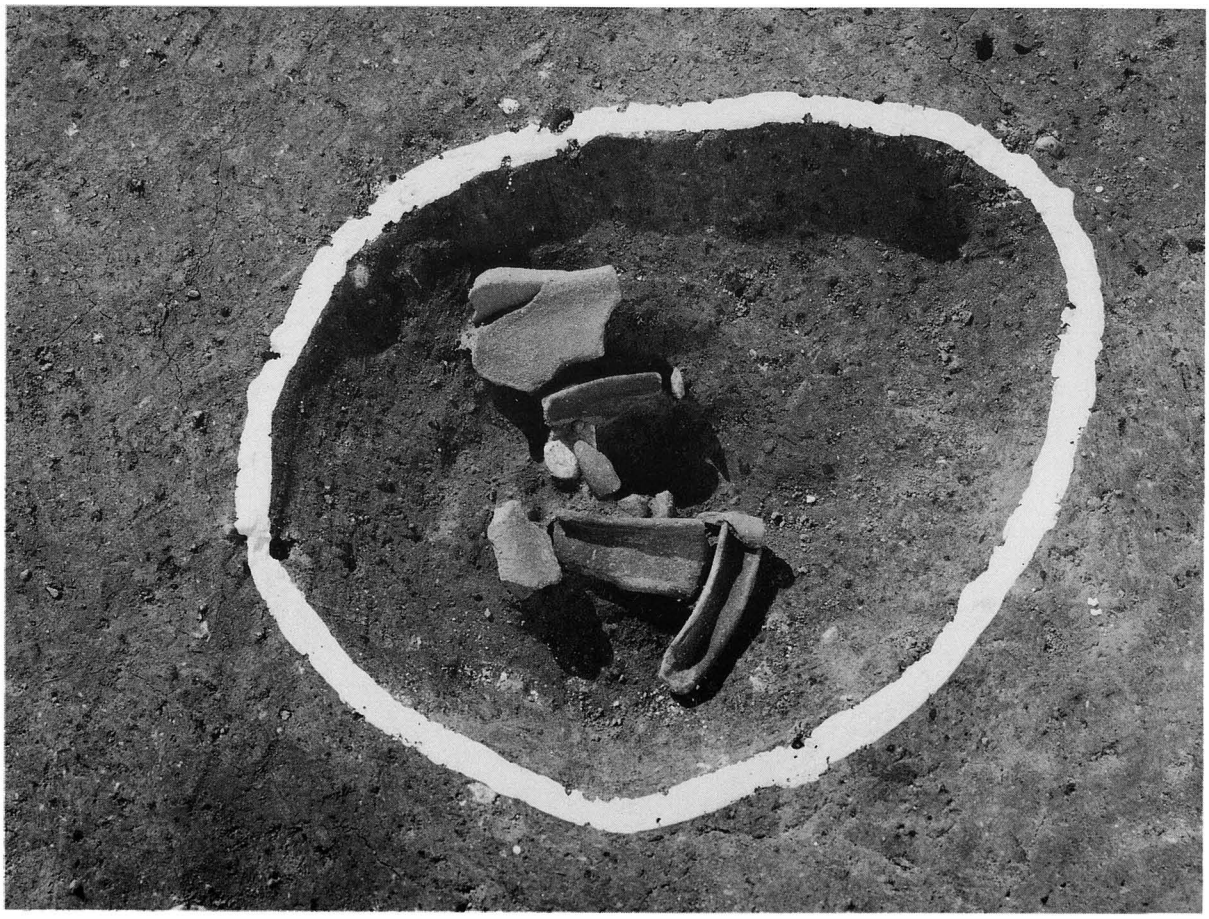
第14図　調査区全体図(1/300)

図　　版

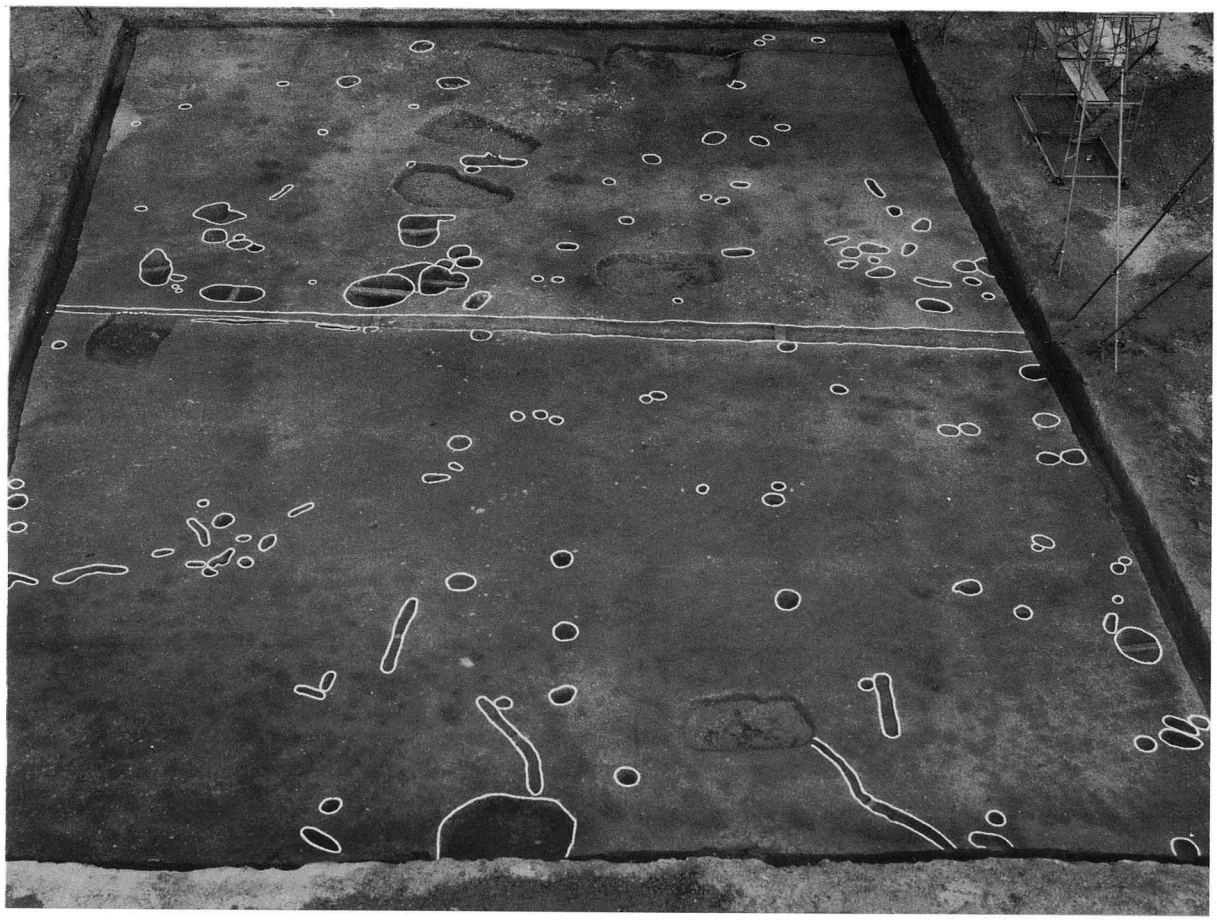
図版1　遺構



第１調査区全景（北東から）



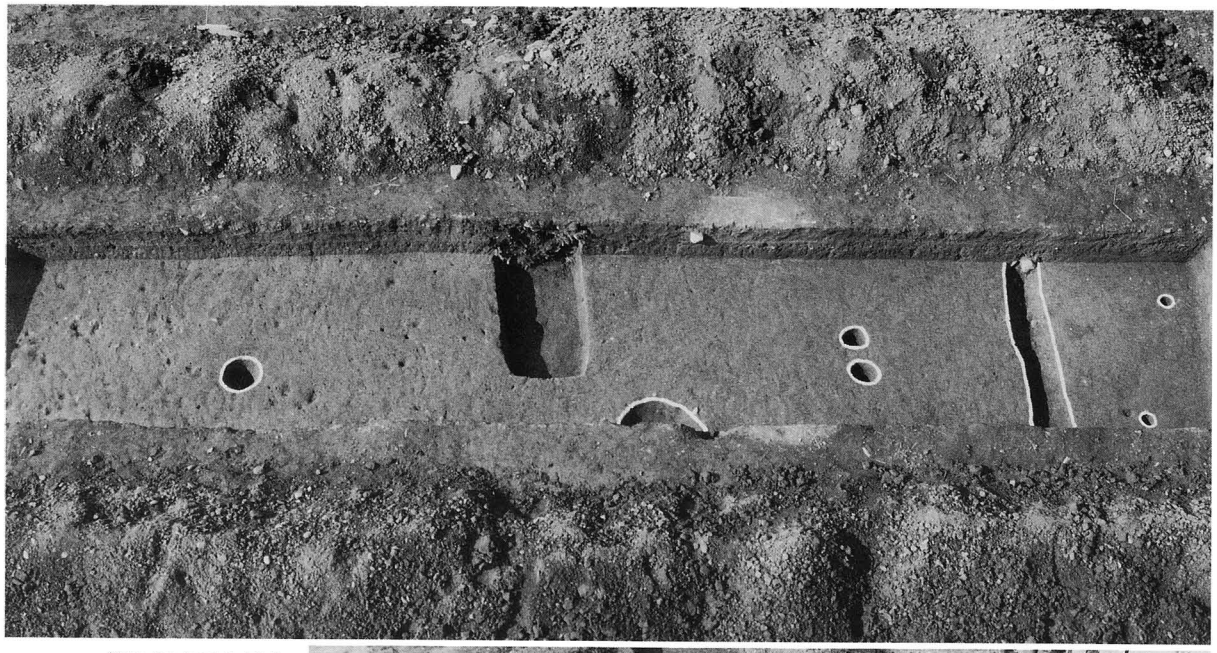
ＳＫ６遺物出土状況（西から）



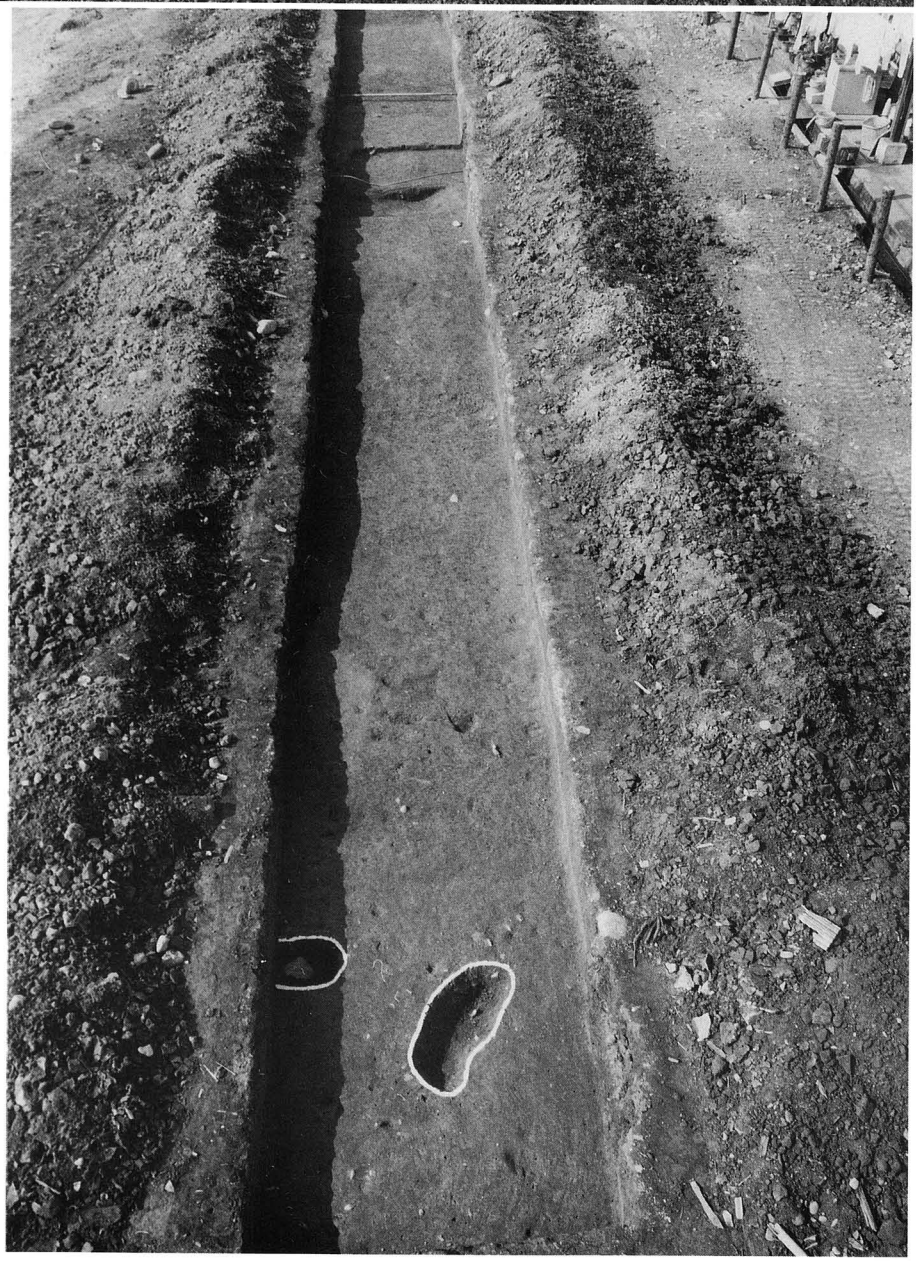
第1調査区全景（南西から）

第2調査区全景（南西から）

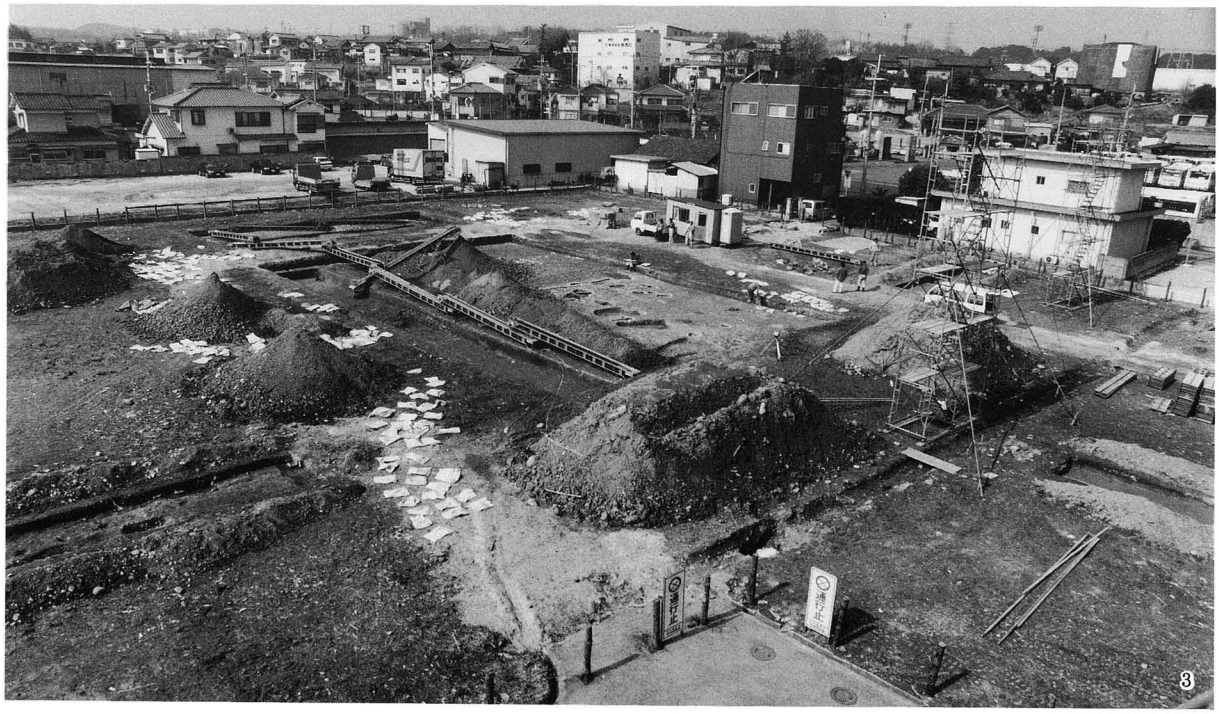
図版3　遺構



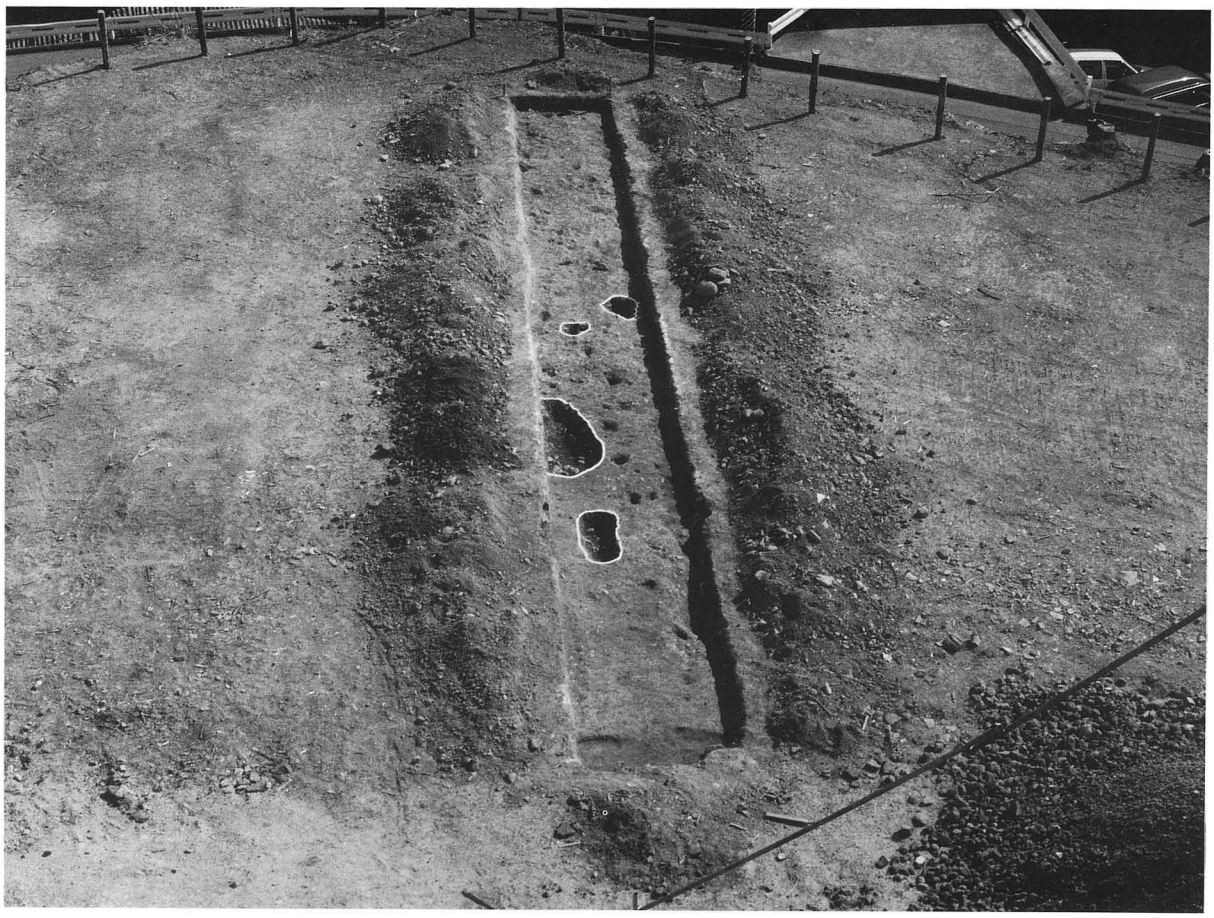
第3調査区全景↑
（北東から）



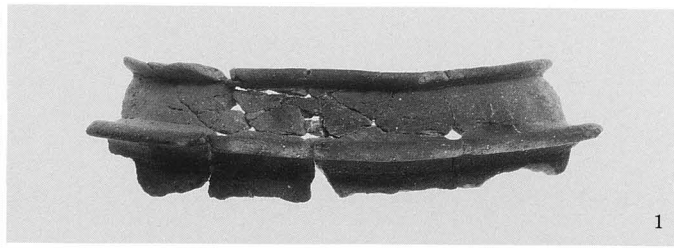
第4調査区全景
（北東から）→

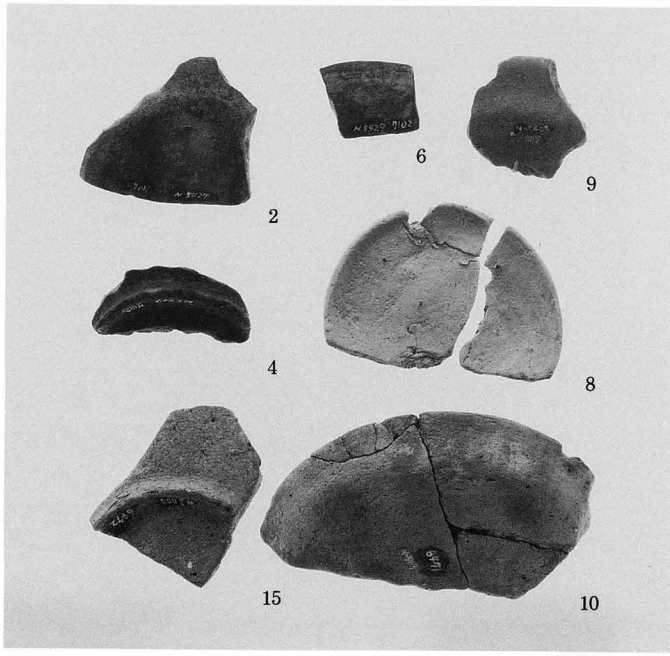


1．第5調査区全景（南西から）、　2．第6調査区全景（南西から）、　3．南西から調査地を望む



第７調査区全景（北西から）





ＳＫ６（１）、第３調査区包含層（２・４・６）、ＳＫ７（10）、第５調査区包含層（８・９・15・16）

報告書抄録

ふりがな	さかえちょうみなみいせき
書名	栄町南遺跡
副書名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ名	河内長野市遺跡調査会報
シリーズ番号	XVIII
編著者名	尾谷雅彦
編集機関	河内長野市遺跡調査会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721-53-1111
発行年月日	1997年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
さかえちょうみなみいせき 栄町南遺跡	おおさかふかわちながのし 大阪府河内長野市 さかえちょう 栄町	27216	府154 河120	34° 26′ 35″	135° 33′ 43″	H8.1.19 ～ H8.3.22	680m²	市営西代住宅建替え事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
栄町南遺跡	散布地	中世	掘立柱建物　2棟 土坑 溝 ピット	土釜	

河内長野市遺跡調査会報XVIII
栄　町　南　遺　跡

1997年3月31日発行

発　行　大阪府河内長野市原町396－3
河内長野市遺跡調査会
0721－53－1111
印　刷　中島弘文堂印刷所